

第5学年図画工作科学習指導案

1、単元名

大千世小のなかまたち

2、単元の目標

(1) 図画工作科としての目標

- 身近な場所に関心をもち、「なかまたち」を探す活動を通して想像の広がりを楽しむことができる。
- 表したい場面のイメージに向かって、彫りや刷りを工夫しながら表すことができる。

(2) 汎用的スキル

- 彫りや刷りを工夫しながら不思議な「なかまたち」を表し、想像したイメージを見た人に分かりやすく伝えることができる。(伝える力)

(3) 態度・価値

- 気になった場所への関心を高めながら表したいことをつかみ、表したい感じに向かって彫りや刷りを工夫することができる。(好奇心・探究心)

3、児童の実態

5年2組の児童は図画工作の時間になると、「今日はどんな活動ができるのか」を楽しみにしながら造形室に入ってくる。昨年も「一本の木」から想像を広げ、自由に絵画表現を楽しんだところである。高学年に入り、正しいものを丁寧に作りたいとか、決められた答えに向かって作りたいという意識が芽生え始めているが、図画工作科の授業の中では、それぞれ違って表れる表現がおもしろいということ日々伝え続けている。

国語科では物語文「注文の多い料理店」を扱い、ファンタジーの世界を楽しむ学習活動を展開した。これに合わせて、図画工作科でも想像の世界を膨らませる活動を計画し、児童の好奇心を豊かに育んでいきたい。

4、単元について

①教科から見た特性

表したい場面のイメージに向かって「掘り進み版画」で表す内容である。掘り進み版画は、刷りを重ねる毎に不思議なイメージが増幅される特徴がある。その特徴を生かして、ファンタジーの世界を表現させていく。また、何度も刷れる版画の特徴を生かし、複数の色で刷りながら、自分の表したいイメージに近づけていく活動を設定した。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

版に表す活動の前に、児童は校内で不思議な「なかまたち」を見つけ出す活動に取り組む。鏡をのぞきながら身の回りを眺めると、普段と違った視点で世界をとらえることができる。普段と異なった見方で世界を見る活動を通して、児童は校内の「場所」に好奇心を寄せ、そこから連想される「なかまたち」を頭の中できり始める。友達には見えない、自分の想像の世界を伝えることは子どもにとって楽しいことである。また、「掘り進み」から生まれる表現の深まりを追求していける単元でもある。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て(全8時間 本時1・2/8時間)

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・「大千世界のなかまたち(スズキ・コージ著)」から、活動への興味をわかせる。 ・鏡を使って校内を見て回る活動の中で、「なかまたち」と出会う(想像する)。 ・見つけた「なかまたち」をスケッチしたり、名前をつけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○好奇心・探究心 ・感性・表現・創造の力 	<ul style="list-style-type: none"> ○導入に使用する資料の用意 ○ファンタジー世界への入口を演出する鏡の使用 ○活動のよさを承認する声かけ
第2次 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチをもとに木の板に「なかまたち」の下書きをし、版を彫る。 ・切りのいいところで、何枚か刷りを試す。 ・掘りと刷りを繰り返し、自分らしい表現を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝える力 ○好奇心・探究心 ・先を見通す力 ・感性・表現・創造の力 ・向上心 	<ul style="list-style-type: none"> ○彫刻刀5種の用途の違いの教授 ○掘り進み版画の表現の特徴の教授 ○刷りを自由に試せる場づくり
第3次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞会の中で、自分の思いを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝える力 ・他者に対する受容・共感・敬意 	<ul style="list-style-type: none"> ○個の表現を伝え合う場づくり

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・身近な場所に関心を持ち、「なかまたち」を探す活動を通して想像の広がりを楽しむことができる。
- ・自分が想像したことから表したいことをつかみ、周りの友達に伝えようという気持ちをもつ。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 15分	○「大千世界のなかまたち」の読み聞かせを聞いて楽しむ。 ・ぼくにも第6感があるよ。 ・この造形室の中にも、「なかまたち」が見えてきそう。 ・掃除ロッカーの中に「なかまたち」がいるかもしれない。	◇本を読み聞かせながら、課題への関心を高める。(導入に使用する資料の用意：好奇心・探究心)
展開 65分	○鏡をのぞきながら歩く活動をする。 ・天井を歩いている気分で楽しいな。 ・こんなところに AED があったっけ。 ・いつもと違う世界が見えるよ。 ・あそこの隙間に何かがいたらおもしろいな。 <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;">不思議な「なかまたち」を探しに行こう</div> ○校内を歩き、不思議な「なかまたち」を探す。 ・さっきの活動で、天井のランプが気になったよ。 ・外に出てみよう、校庭の遊具で何か見つかるかもしれない。 ・私は自然の中にいる「なかまたち」を想像したいな。 ・図書室には本にちなんだ「なかまたち」がいるはずだ。 ・最近この換気扇の調子が悪いのは「なかまたち」の仕業かもしれない。 ○見つけた「なかまたち」をスケッチする。 ・体育館のバスケットゴールのところに、こんなのが見えた。 ・花びらの上で昼寝している様子が頭に浮かんだよ。 ・静電気を発生させる「なかまたち」はビリビリしてそうだな。 ・図書室にいたから名前は「ブクン」にしよう。	◇鏡をのぞいて視点を変化させることで、普段と違った体験をさせ、思考を柔軟にさせる。(ファンタジー世界への入口を演出する鏡の使用：感性・表現・創造の力) ◇個別指導の中で、場所の特徴から豊かに想像を膨らませる様子をとらえ、そのよさを伝える。(活動のよさを承認する声がけ：好奇心・探究心) ◆身近な場所に関心を持ち、「なかまたち」を探す活動を通して想像の広がりを楽しむことができている。(活動の様子、発言、スケッチ)
結末 10分	○どんな「なかまたち」を見つけることができたか紹介し合う。 ・バスケットゴールの紐のところにぶら下がっている「なかまたち」がいました。ボールがゴールに入る度にスリルを楽しんでいるようでした。 ・図書室に「ブクン」というやつがいて、本の内容を書き換えています。自分が嬉しい時はハッピーエンドに書き換えます。 ○次時の見通しをもつ。	◇場所と関連させながら自分らしい「なかまたち」を想像できたことを認めるとともに、どんな物語性に対して聞いている人がおもしろさを感じるのかを指摘し、全体に共有させる。(活動のよさを承認する声がけ：好奇心・探究心) ◆自分が想像したことから表したいことをつかみ、周りの友達に伝えている。(発言)